



うちもうこ  
中国内蒙古自治区との“絆”プロジェクト  
— 25年を超える教育交流を通して —

兵庫県朝来市わだやま国際文化交流協会

はじめに

2005年に朝来郡4町（生野町、和田山町、山東町、朝来町）が合併して誕生した朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、日本海へ流れる円山川や瀬戸内海へ流れる市川などの源流を発する山々に囲まれた自然豊かなまちです。近年では“天空の城”、“日本のマチュピチュ”などの愛称で人気を集めている国史跡・竹田城跡が、日本全国、そして海外から多くの観光客を迎えています。

わだやま国際文化交流協会は、旧和田山町時代の1988年に中国内蒙古自治区人民教育基金会との交流が始まったことを契機として発足しました。以来、内蒙古自治区への日本語学習支援やアメリカオレゴン州ニューバーグ市との中学生交流事業など、教育を軸とした国際交流を推進しています。

内蒙古自治区に「生きた日本語」を！

呼和浩特市は人口約303万人（2016年現在）で、北京の西北西約669kmに位置する内蒙古自治区の中心都市です。「呼和浩特」とは、モンゴル語で「青い城」を意味し、市郊外に広がる大草原とそこで繰り広げられる雄大な羊や馬の放牧、移動式テント「パオ」は魅力的

な観光資源として訪問者の人気を集めています。

さて、北京大学教授の紹介により交流を開始した1988年当時、内蒙古自治区の西部では中国の中でも日本への関心が特に高く、多くの学校で日本語が第一外国語として選択されていました。ところが、教材に加え指導者も不足していたため、当協会は「中国に正しい日本語を贈る運動」を交流事業の根幹に据え、日本語教材の提供や指導力向上を目的とした呼和浩特民族学院の日本語教師招聘など、「生きた日本語」を持ち帰っていただくための事業を1989年から開始しました。本事業も今年で25回目を数えます。日本語教師招聘から始まった本事業ですが、今では日本語を学ぶ学生の招聘も併せて実施し、活動の幅を広げているところです。

また、市民との交流も盛んに行われています。研修期間中、研修生は協会の会員宅にホームステイしながら日本の生活習慣を体験するとともに、休日は地域の伝統行事や祭り、市のイベントに参加しています。併せて、日本語の指導資格を有する協会会員による日本語の特別クラスを受講し、日本語表現に磨きをかける一方、市内の小・中学校では児童生徒らに内蒙古自治区の生活様式や自然環境を紹介し、本市における国際理解教育の推進にも寄与しています。



中学校で内蒙古の文化を紹介する研修生



兵庫教育大学で体験授業に参加する研修生



呼和浩特民族学院での協議の様子

近年では兵庫教育大学、姫路獨協大学、立命館大学などの教育機関を訪問し、授業体験や留学生との交流を行っているほか、本年からは市内福祉施設での福祉ボランティア活動への参加、公民館でのモンゴル料理教室、着物の着付け・茶道体験を実施するなど、多岐にわたるプログラムを実施しているところです。

さらに、交流の在り方に関する検討や研修生選考のため、毎年内蒙古自治区へ教育視察団を派遣し、交流の相手先団体である内蒙古自治区人民教育基金会、呼和浩特民族学院と今後の活動に向けた協議も行っています。

## 花開く、心の交流

本事業の研修受講者は総勢 50 名ほどとなり、中には朝来市や日本各地に根差して生活している人もいます。また、京都大学に留学した人や、大学卒業後に上海市や北京市の日系企業に就職し、中国と日本を結ぶ架け橋として活躍している人もいます。

また、活動の様子は、市のケーブルテレビや協会の機関誌を通して市民へ情報発信しており、新聞に取り上げられることもあります。実際に活動に関わった児童生徒、協会会員からは、貴重な経験ができたという感想が多数寄せられており、まさに「心の交流」が実を結びつつあるところです。

さらに、朝来市の姉妹都市であるアメリカオレゴン州ニューバーグ市のシャヘイラムバレーミドルスクールとの中学生交流事業も、20 年を超える歴史を刻んでいる、息の長い活動となっています。

これらの交流は、いずれも 20 年以上にわたり継続・充実し、市民の国際性の向上に繋がっているものと考えますが、この活動は当協会のみならず多くの市民の献身

的な奉仕とボランティア精神がなくては成り立たないものでした。それは、まさに市民レベルでのローカルな交流であり、人と人を繋ぐ「心の交流」であったと思います。

まちづくりは人づくりから。この合い言葉のもとに、朝来市では 21 世紀をより豊かに生きる人材、世界のリーダーとして活躍できる人材づくりをめざして、これからも草の根交流を一段と推進していきます。

## さらなる国際交流の発展に向けて

内蒙古自治区との継続的な教育交流は、多くの協会会員と関係各位の尽力により発展してきましたが、当協会では今後もより多くの人的ネットワークを活かして、交流を継続させていく予定です。また、市内福祉法人の協力も得ながら、今日的課題である高齢者福祉や障がい者福祉の分野にも交流を広げ、さらなる国際交流の発展に貢献したいと考えています。

国際交流にあたって、当協会では市民レベルでのローカルな交流、協会にしかできない独自の友好交流を展開していくことが重要であると考えています。「中国に正しい日本語を贈る運動」、そして日本語を学ぶ中国研修生の招聘、訪蒙団の派遣、呼和浩特民族学院との教育交流など、独自性を生かし、かつパイロット的な取り組みとしてスモールステップながらも一歩ずつ着実に歩んでいきたいと思っています。

日中間には、長きにわたる文化交流の歴史があります。一衣帯水の隣国同士であり、2000 年を超える交流の歴史を有し、今や経済的にも大きく相互に依存しています。民間レベルの交流を深めることで、多くの市民や次代を担う子どもたちの国際性を培うとともに、両国の友好発展の新たなページを拓くことができることを願っています。

この、多くの先達により取り組まれた、近隣にはない特筆すべき事業は、近年、その必要性がより高まっている“民間の力による日中間の草の根交流”の先駆けであったことと併せて、教育文化の交流を通して国際感覚豊かなまちづくり、人づくりに寄与したものと確信しています。また、こうした取り組みが評価され、本事業は第 10 回自治体国際交流表彰を受賞することができました。

まさに継続は力なり。これを励みに、今後も新たな国際交流の輪の広がりとしらなる交流の発展・充実を目指して努力していきます。